

## モスクワ東方学研究所訪問記

宮 坂 有 勝

1973年8月から9月にかけて、ソ連仏教会の招待を受けて訪ソした。当時、レニングラード東方学研究所・モスクワ大学に案内された。昨年（1978年）6月のソ連・モンゴル両仏教会の招きで、再度訪ソ。このたびはモスクワ東方学研究所およびウランウデ科学アカデミー・モスクワ大学を尋ねた。ソ連におけるインド学・仏教学関係の研究状況はまだわが国にはほとんど全く知られていないので、ここに概要を報告したい。

1978年6月23日、ブリヤート出身のソ連仏教会モスクワ本部事務局長ドゥルマ女史の案内でモスクワ東方学研究所（ソ連科学アカデミー）を訪問。知友のトルカチョフ、デリコフ両教授の出迎えを受ける。

この研究所は現在地より近日中に新築された建物に移転するとのことである。

エリザリニコ女史。サンスクリットを専攻。『リグ・ヴェーダ』をロシア語で部分訳し、また昨年（1977年）は『アタルヴァ・ヴェーダ』のサーヤナ注つきのロシア語訳を二分冊にして出版した。かの女はおもにレニングラード東方学研究所（以下、レ研と略称）にいる。

バーシニコフ教授。『マハーバーラタ』をもとにして古代インド神話を研究している。論文も多く、『マハーバーラタ』の研究で学位を得た。これに関連したものがモスクワで出版された。トゥリンツェルの方法によって、この叙事詩の語集を分析し、口承の神話の全体的な組織を調べている。

ルードイ教授。レ研でサンスクリット作品を対象にして仏教を研究している。ここには仏教論理学の研究でステルバツキー以来の伝統が今もある。

チョムキン教授。インドの古代文学、とくに詩の研究をすすめて、これについて著書もある。

ニエーベロワ教授。かの女はレ研でインド神話を研究している。

アリハノフ教授。かの女はモスクワ大学でインド古代詩の研究をおこない、現在はアーナンダヴァルダナの作品を取り扱っている。モスクワ大学で古代インド文学の講座を担当。サンスクリットとパーリ語との種々なるテキストをロシア語訳し、仏教文献では『経集』や『長老の詩』のロシア語訳を、2、3年前に出版した。

ベルトグロドワ教授。サンスクリット、ブラクリット、パーリ語を専攻し、いい研究をすすめている。ブラクリットで学位を得た。かの女もまたブラクリットで書かれたインド古代詩をロシア語訳した。現在は、主に『能断金剛般若経』に取り組んでいる。

ボウコワ教授。かの女は『法句経』その他について仏教研究をおこなっている。『法句経』は10年前に夫君のトポロフ教授がロシア語訳を出版した。また2年前にトポロフと一緒にパーリ語文法をモスクワで出版した。英語版もある。

文学部門でグリゴリワ教授がいる。女史は『日本の芸術的伝統』という書物を本年中(1978年)に出版する。これは日本の文学における論理と哲学とを分析し、仏教の真理も取り扱っている。8～18世紀の日本の思想を対象とし、また道元の『正法眼蔵』なども読んで、成果に入れた。とくに禅が日本人の生活様式にどのような影響を与えたか、また川端康成の文学と禅との関係もテーマとして取り挙げたり、仏教の世界観が文学にどのように現われているか、も考察している。

仏教の研究、とくに康成の文学と禅との関係は日本語部のマイヤー講師もテーマにしている。

デリコフ教授。モンゴルと中央アジアの歴史の専門家。ときにこれらの地方の仏教史も研究している。教授じしん、敬虔な仏教徒でもある。デリコフ氏いわく、「このモスクワ研では地域的には極東アジアからアラブ、北アフリカに及ぶ研究が各分野でおこなわれている。また、現在のソ連の仏教研究にはミナエフ、オルデンベルク、スチェルパツキーなどのレニングラード学派の伝統が生きており、スチェルパツキーの系統ではゼンスキー教授、トポロフ教授がいる。

チベット研究をしているのはメンシコフ教授、サビツキー教授、マルティエーノフ教授の三人で、チベットの歴史、言語および仏教を調べている。

モスクワ研ではボンガルド・レーベン教授がチベット研究をすすめている。モスクワ哲学研究所は科学アカデミーに所属し、ここにはアニケーエフ教授が仏教哲学を、とくにインドを対象にしておこなっている。

パルフィノーヴィチ教授は言語学の専門家で、レ研でチベット語を研究している。

チベット語・ロシア語・英語・サンスクリットの四語対照の辞典を編集途中で、これは故レリフの辞典を継承したものである。主に仏教語が入っているのが特徴的で、全六巻を2、3年後に出版予定である。第一巻は1979年中に出版されよう。

モスクワ研にも1920～30年にレリフ(1958年没)の請来したチベット文献がある。レリフの2人の子息も学者で、1人は現在インドにいる。

同じく科学アカデミーに属するモスクワ極東研究所のボゴソロフスキーは現代チベットを研究している。モスクワ研のグリュエーヴィチ教授も現代のチベットを研究中であるが、今日、ソ連とチベットとの交流がないため、新しい資料を入手できないのである。モンゴル人民共和国との学術文化の交流はおこなわれているので、モンゴル仏教の新しい研究もすすんでいる。モンゴル仏教はモンゴル史のなかに入る。この研究グループのブルーフジャフ教授はモンゴルにおける仏教の伝播、分布を研究しており、秋(1978年)に

は学位論文が提出される。これはモンゴル研究の最近の成果の一つである。また同じくツィヴィクチャボフ助教授はブリヤートのラマ仏教の研究をすすめている。かれはブリヤート仏教の研究論文をレニングラード大学に提出して学位を取得した。現在はウランウデにいる。アーバエフ氏はブリヤート出身、モスクワ大学大学院で3年間、8世紀の臨済禅を研究し、つい数日前、学位をえた。かれは『臨済録』のロシア語訳をした。

チベット語辞典編集にしたがうバルフィノーウィチ教授の夫人デリコワ女史はデリコフ教授の娘で、夫妻ともにチベット文献の研究に従事し、とくに中世チベット文学を専攻しており、ロシア語訳したものもある。

トビリ教授はアリストテレスの論理学と仏教論理学とを比較研究し、論文をモスクワ哲学研究所の紀要に載せた。

エリザノフ教授のヴェーダ文法は1979年中に出版される。

グリゴリワ女史は道元、日蓮、法然などを研究し、また仏教哲学の基礎を理解するために、中世の日本語を調べている。さらに仏教の世界観も手がけている。かの女はレニングラードの出身でモスクワ研にいる。日本研究に従事する若い研究者は数多い。デルジャービン教授は創価学会、公明党を研究し、3年前に『現代日本における新仏教運動』という本を出版した。

ウランウデ科学アカデミーはチベットの蔵内外の文献を蒐集し、北京版、ナルタン版も完全に揃っており、クローン版もある。ここのチベット部門にはチベット史研究にプバエフ教授とドッガロフ教授がおり、チベット美術研究にゲラシモフ教授、チベット文字およびチベット図像学にボルソホエフ教授がいる。彼の2人は若い女流チベット学者である。

レ研のチベット文献は世界最大のコレクションを誇っている。現在、ここに蔵するサンスクリット文献の目録を出版準備中。

モスクワ大学にはモンゴル大蔵経が完備している。レ研の漢文文献の敦煌文書は目録を作成中である。また、ここの研究グループは仏教論理学のディグナーガ、ダルマキールティの学説と現代数学との比較研究をおこなっている。

る。

レ研とウランウデ科学アカデミーの両方のグループで俱舎論の全注解をふくめた詳細な索引を作成している。仏教文庫(Bibliotheca Buddhica)は1939年に出版した第30巻の中辺分別論で中断されたが、現在、続刊の出版を準備している。

モスクワ大学のノエユフ教授は科学的社会主義の立場から宗教史を取りあつかい、仏教も講義している。この大学の哲学学部および附属のアジア・アフリカ研究所でも仏教研究がおこなわれ、仏教の内容も教えている。

モスクワ大学附属のアジア・アフリカ大学の外国語講座の中、東洋関係のものは日本語、アラビア語、インド諸言語、ベトナム語、朝鮮語、中国語、アフリカのスワヒリ語に分かれ、インド語部門では1年間ヒンディー、あとの1年間でウルドゥーをやる。サンスクリットとチベットとは希望者があれば、東洋研究所でいつでも開講する。ここにもアジア各地域の語学講座がある。なお、近年、アジア諸地域の言語について英文の文法書がいくつか出版されている。たとえば、インド関係では、サンスクリット、パーリ、ヒンディー、ベンガール、タミール、テルグ、ウルドゥー、マラティー、マラヤランなど広範囲に及び、ソ連における言語研究の層の厚さがうかがえる。

(付記) モスクワ研では、デリコフ、トルカチョフ両教授、ウランウデ科学アカデミーではグラシモワ、ボルソホエワ両女史の教示をいただきましたことに対して深く謝意を表します。